

実務家教員授業科目一覧

キャンパス	学部	区分	科目名	単位数	担当者名	授業概要
J W U キ ャ リ ア 科 目	家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部		ライフプランとキャリアデザイン	2	高橋美紀	ライフプランやキャリアデザインを設計するためには、社会環境や企業に関する理解が欠かせない。社会や企業において女性がどのような状況に置かれているか、大学時代からその現状や背景を理解することが重要である。授業では、女性のライフプランやキャリアデザインに関連させながら、経済社会や企業組織の仕組み、現状や課題について、ゲストスピーカーとして外部から招く専門家及び卒業生の講話や、授業担当者自身の経験（一般企業勤務や、中小企業診断士・社会保険労務士としての企業支援経験）も交えながら解説する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			女性と職業	2	鈴木陽子	本授業は、現代女性の職業の実態をさまざまな具体例を通して学び、働く意欲と勇気を得ることを目標とする。各界で多彩に活躍している各学科の先輩をゲストスピーカーとして招聘し、職業選択やキャリアについて自らの指針を持つことができよう。さまざまな分野での仕事のあり方を実際に見聞する機会を提供する。授業の最終回に、授業全体の振り返りと講評を行う。なお、授業担当者は、民間シンクタンクにて、主に官公庁や自治体等の委託調査に携わっている。少子高齢化施策（子育て支援、高齢者介護等）、再立支援（子育て、介護等）、ワーク・ライフ・バランス、共生社会等に関する政策テーマに取り組んでいる。※「実務経験のある教員等による授業科目」対象
			仕事・結婚・わたし	2	高井彩名	近年、アイデンティティは関係性の中で構築されると言われている。特に女性はライフサイクルを考えると結婚、出産、介護など他者との関わりを避けて通れない。授業では、自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養う。授業担当者は、臨床心理士・公認心理師として、大学の学生相談を中心に活動。その他、精神科クリニックや、スクールカウンセラーなどとしても実務経験あり。最近の研究テーマは「好きなものを語ることの心理的作用について」などである。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					北島歩美	近年、アイデンティティは関係性の中で構築されると言われている。特に女性はライフサイクルを考えると結婚、出産、介護など他者との関わりを避けて通れない。授業では、自分、家族、社会というシステムについて説明する。自分自身を捉える視点を持ち、家族ライフサイクルについて考えることによって、今後の人生で生じる様々なことに対処できる力を養う。授業担当者は、臨床心理士・公認心理師・家族心理士として、大学の学生相談を中心に30年ほど活動。その他、産業カウンセラー、私設のカウンセリングルームでも実務経験あり。専門はアタッチメント理論と家族療法である。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			女性と身体	2	小笹由香/辻美千子/新田典弓	女性の体や心は、人生の中で様々な変化をすることがあります。それらを受けとめ、受け入れ、女性として生きていくことがとてとても大切です。この授業では、医療者である助産師・看護師・歯科医師・認定遺伝カウンセラーを中心に、患者や家族の立場にも着目しながら多様な立場から、思春期・妊娠・出産・更年期・高年齢期の女性の一生を通じて起こる心身面での課題とそのケアについて解説します。特に、現代若年女性の問題や女性特有の疾患、妊娠や出産、そして出産前診断などの生命倫理に関わる問題など、女性として生きていく人生に役立つことを取り上げます。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			ライフステージと法	2	柳原由以/大沼宗範	人生生きていくうえで一生の間に出会うであろう法律問題（就職・結婚・出産・離婚・相続・消費者問題等）の基礎知識を身に付けることを目的とする。いくつかの具体的な事例の紹介や、その対応先の議論や解説を行う。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			社会に出るための課題解決	2	橋本大輔	社会とつながる一歩を、自分の「問い」から始める 社会に出ることに、期待と同時に不安を感じている人も多くはみれません。社会や働き方は、デジタル化やグローバル化の進展により大きく変化し、一つの正解を覚えれば通用する時代ではなくなっています。だからこそ今、求められているのは、目の前の状況から課題に気づき、自分なりに考え、周囲と対話しながら前に進んでいく力です。本授業では社会とつながる「最初の一歩」を、自分自身の違和感や疑問＝「問い」から踏み出すことを目指します。 正解のない時代に、考え続ける力を育てる この授業で扱うのは、すぐに答えが出る問題だけではなく、社会に出る前の「準備段階」として、働くうえで知っておきたい基礎的な知識や視点を整理しながら、身近な出来事やニュース、社会の動きの中にある小さな違和感や手をかりに「なぜだろう」「自分ならどう考えるか」を掘り下げていきます。課題に気づき、考え、言葉にし、他者と共有するそのプロセスそのものが、これからの社会で必要とされる「課題解決力」の土台になると考えています。 現場で働く社会人の視点から学ぶ 担当教員は、社会人として20数年にわたり企業の現場で働いてきている現役の社会人です。本授業では、実社会での経験をともに、働くことのアリアルや、価値観の変化、意思決定の難しさなどを共有します。また、さまざまな業界からゲスト講師を招き、教科書だけでは見えにくい「社会の今」に触れる機会を設けます。 「教わる」から「考えて学ぶ」へ 授業は、「自分を知る」「社会を知る」という二つの軸で構成されます。毎回のリアクションペーパーでの対話を通して、感じたことや考えたことを自分の言葉で整理し、深めていきます。一方的に知識を受け取るのではなく、問いを立て、考え続ける姿勢を身につけることを重視します。授業を通して、社会に出ることへの不安を少しずつ減らし、「自分にも社会の課題に関われる」という実感を持ちながら、次の一歩を踏み出せるようになることを目指します。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
					尾方僚	*社会に出るための自己表現 2.3(前期) 5.6(後期) は同内容です。【目的】社会生活を送る上で必要不可欠であるコミュニケーションスキル。コミュニケーションからプレゼンテーションという流れで実社会に出るために必要な「表現する方法」を「バーバルコミュニケーション（言語コミュニケーション）」「ノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）」、「アクティビティ」などに分け実習を通して自己表現を学ぶ。また実習ではディスカッションやグループワークも、これらを通して社会に必要なチームワーク、タイムマネジメントなども理解することができる。企業、業界の仕組みも実習を通して理解することができる。＜社会＞に出るための とタイトルがついている通り、＜社会＞の1員であることを認識し、卒業後関わる社会がどんなものかを理解する。クラスの仲間たちとワークショップ「情報共有」をし理解を深めることができる。□クラスのメンバーとワークショップやディスカッションを通して経済、社会の知識を深めることができる。□ワークショップの中で常にミクロ、マクロの視点でみることをテーマとし、実践的視野を広げ、成長することができる。【内容】企業研修（面接官トレーニング）などで使用しているものを元にした実習がメインの授業。自己を表現する（PRする）ためにはどんなことが必要か、また自身に対して相手がどんな印象をもつかなどを実際に体験する中で「気づき」や「発見」を促す。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			社会に出るための自己表現	2	村上里和	人は「ことば」で考え、「ことば」で行動します。社会に出て求められる自己表現とは、単に上手に話すことではなく、自分の中にある漠然とした思考や感情を整理し、相手に伝わる形で言語化する力です。本授業では、コミュニケーションの基礎となる「話しことば」に焦点を当て、日本語の音声表現の特質や日本語の構造について学んだうえで、実践的な演習を通して自己表現力を高めていきます。「自己紹介」「スピーチ」「インタビュー（対話）」などの表現活動を通して、自分の考えを明確にする過程や、対話を深めるための「問いの立て方」を段階的に学びます。さらに、朗読や音声メディアとしてのラジオを題材に、聴き手を意識した表現のあり方について考察を深めます。話しことばの基礎を踏まえながら、自分の漠然とした思考を言語化し、問いを立て、対話によって考えを深め、最終的に公の場で自分の言葉として発信するというプロセスを、段階的な演習を通して学ぶ構成となっています。こうした学びを通して、社会の中で他者と関わりながら、自分の言葉で考え、伝え、行動できる力の獲得を目指します。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			現代ビジネスと起業	2	奥山睦	・日本経済の現状と労働環境について考える。・世界的な働き方の潮流を見つめながら、女性のキャリア形成について考える。・パンデミックや戦争、自然災害等の影響から世界情勢を俯瞰的に見つけ、持続可能な社会の在り方について考える。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			インターンシップとキャリア実習	1	澤田美砂子/藤永康政/周燕飛/村岡梓	就業体験を通して、その仕事に就く能力が自らが備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極め、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるような実習に参加する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目
			インターンシップ	2	澤田美砂子/藤永康政/周燕飛/村岡梓	就業体験を通して、その仕事に就く能力が自らが備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極め、自己の適性や可能性を探るきっかけとなるようなインターンシップに参加する。「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目

実務家教員授業科目一覧

キャンパス	学部	区分	科目名	単位数	担当者名	授業概要	
J W U 社 会 連 携 科 目	家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部	目白	社会課題とNPO・NGO	2	大池綾梨香	社会には多様な課題が存在している。教育、福祉、環境保護、医療、貧困対策、人権保護など、あらゆる分野で国や行政だけでは対応しきれず、日本全体や地域で課題が山積している。世界に目を向ければ、紛争の絶え間ない状況や国家間・国内の分断が進み、これまで築かれてきた秩序が揺らいでいる。こうした社会情勢の影響を最も受けるのは、常に社会の弱者である。コロナ禍でも、非正規雇用者、シングルマザー、子どもなど、弱い立場の人々に負担が集中した。また、日本は人権分野で後進のとされ、特に女性を取り巻く環境は厳しい。女性活躍指数は低く、ジェンダーやLGBTなどの課題も折に折に社会問題として顕在化している。こうした社会課題に取り組み市民の思いを力に変えるために制度化されたものが、非営利活動促進法人(NPO)である。NPOやNGOは、地域の課題に気づいた市民が集まり、解決に向けて行動するための仕組みである。意思決定が速く柔軟に動けるため、行政や企業が対応しにくい問題にも迅速に取り組みすることができる。また、非営利であることから多様な人々の共感を得やすく、地域ニーズを深く理解しながら現場に寄り添った支援が可能である。NPO法の施行から20年以上が経ち、市民社会に一定の存在感を持つようになった一方で、その活動実態は十分に認知されているとは言えない。社会課題が複雑化し領域が広がるなか、課題解決の担い手はNPOだけでなくマルチセクターへと広がっており、NPOはその中で協働・共創を生み出す重要なプレイヤーとして期待されている。そこで、本講義では、現代社会が抱える多様な課題と、それに取り組む主体としてのNPO・NGOの役割を学ぶ。行政や企業だけでは対応しきれない領域で、市民が主体となって課題解決を進める仕組みとしてのNPOの特徴、意義、活動の実際を理解することを目的とする。授業では、NPOの基礎知識に加え、SDGsの広がりに伴う企業や行政との協働のあり方にも触れる。さらに、社会課題の現場で活動する実務者をゲストとして招き、具体的な取り組みや課題発見から行動までのプロセスを学ぶ。知識の習得にとどまらず、学生自身が社会課題に気づき、考え、行動するための視点を身につけることを目指す。「実務経験のある教員による授業科目」対象科目	
			企業と社会連携	2	海上泰生	今日では、人口減少・格差拡大・デジタル化・国際情勢の不透明化など、様々な経済・社会の問題が進行しています。現代における複雑な多様な諸問題は、もはや行政のみの力では解決困難な段階にあると言えます。こうした状況下では、「企業がビジネスを通じて、いかに社会の課題を解決し、共生していくか」というテーマ、すなわち「企業と社会連携」に注目が集まります。今日の企業は、事業として継続できるように適切な収益を得ながら、積極的に社会課題を解決していく姿勢が求められるのです。そこで、本講義では、まず、企業とは何か、事業とは何かという基礎的な事項を学びます。そのうえで、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)、CSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造)、「ステークホルダー (多様な関係主体) との協働」などをキーワードとして、実際の企業活動を学ぶことで、企業と社会との共生について実践的に考えられる力を養います。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)	
			社会連携を学ぶB	2	田井中慎	企業や自治体等では、組織内や業務上の諸課題の見直し、新規事業の提案などの場面で、組織外にコンサルティングを依頼することが多く見られるが、大学のような当該業務や営利と無関係な異なる組織と連携し、組織の課題解決を目指すという試みが多く行われている。これを一般的に、大学における「社会連携事業」「社会連携活動」と呼ぶが、本授業では、地域活性化・SDGs (持続可能な開発目標) をキーワードとし、実際の企業を対象に社会連携活動やその基礎的知識についての理解、課題発見、課題解決の手法や具体例を通し、現在の社会連携のあり方を考え、実際に企画立案・実施を通じ実践的な学びとする。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)	
			課題解決型ワークショップを用いた企画開発	2	山下雅洋	本授業は、株式会社読売広告社の寄附講座として行われるものである。読売広告は多様なビジネス領域において、ワークショップスタイルを活用したイノベーションで成果を上げている広告代理店である。その場で実際に実践されているワークショップの手法を学び、実際に企業の要望を想定したり、または実際の企業とコラボしながら、ワークショップで活用した企業の課題解決の具体的な作成もおこない、受講者の課題解決能力の向上を目指す。本年度は9月1日(月)~4日(木)の予定で集中講義の形式で行われ、参加企業は未定である。参加企業が決まり次第、manabaの方に連絡を入れる。「実務経験のある教員等による授業科目」	
			社会におけるICT、データサイエンス活用A	2	湯浅且敏	学外の企業や組織の協力の元、実社会での問題発見、問題解決の活動を模擬的に体験する活動等を通して、現在、広く教養として求められる「データサイエンス・AI」に関わる実践力を高める授業です。また、協力企業から、社会に出てから必要となる個人情報保護の扱いや情報セキュリティについて注意すべきポイントなどを教示していただきます。この講義では、実社会の課題に対して、現状を分析し、解決案を提案する活動を通して、実際の問題解決に活用できる、情報収集力、分析力、問題解決の獲得を目的とします。このため、文献やインターネット上のデータの収集や分析といった活動を、個人やグループワークで行う演習を中心とした授業となります。また、問題解決におけるAIの利用を実践し、さまざまな場面でAIを活用できるスキルを高める活動を行います。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目) 協力予定組織 国立情報学研究所 株式会社ラック	
			地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習B	2	田井中慎	企業や自治体等では、組織内や業務上の諸課題の見直し、新規事業の提案などの場面で、組織外にコンサルティングを依頼することが多く見られるが、大学のような当該業務や営利と無関係な異なる組織と連携し、組織の課題解決を目指すという試みが多く行われている。これを一般的に、大学における「社会連携事業」「社会連携活動」と呼ぶが、本授業では、地域活性化・SDGs (持続可能な開発目標) をキーワードとし、実際の企業を対象に社会連携活動やその基礎的知識についての理解、課題発見、課題解決の手法や具体例を通し、現在の社会連携のあり方を考え、実際に企画立案・実施を通じ実践的な学びとする。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)	
			地域・企業と未来を創るクリエイティブ・プロジェクト 演習C	2	矢澤優理子	本講義では、地図のデジタル化を支える基本的な技術であるGIS (Geographic Information System) の基礎的な知識と、GISソフトウェアの基本操作を学ぶ。GISの普及は、あらゆる学術分野の研究者、公共団体、企業による空間分析を飛躍的に進歩させ、今日では私たち一般市民も日常的に扱えるツールとなっている。GISのしくみや、GISに関わる技術発展について、講義とGISソフトウェアの操作を含む実習によって学ぶとともに、私たちが無料かつ大きな制約なく利用できるオープンデータのダウンロード等を通じて、情報の取得方法についても学ぶ。また、本講義のまとめとして、期間の後半にはグループワークによるオリジナルマップの作成と空間分析を行い、データ活用による空間把握の応用可能性を理解する。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)。	
			情報基礎処理科目	ICT活用I	2	久保進次	Webデザインの基礎 【授業の目的】 インターネットは現在、多様なデバイスを通じて日常生活に不可欠なインフラとなっています。本授業では、情報の「受信」にとどまらず、自ら「発信」することの重要性を理解し、そのための技術を習得します。【授業内容】 Webページの企画・デザイン・制作の一連のプロセスを学び、実際にWebサイトを構築・公開することで、信頼のある情報発信を実践します。【注意事項】 制作した作品は原則としてWeb上で公開されます。また、大学や学部の広報活動に使用される場合があることをあらかじめご了承ください。(※実務経験のある教員による授業科目)
			教養科目	人体の構造と機能及び疾病 (遠隔)	2	西岡大輔	【本講義の目的】 医学一般の基礎知識、医療や福祉の視点の違い、健康や病気に関する考え方を整理・理解すること。それにより、人々(クライアント)の健康な暮らしへの理解を促進するとともに、保健医療専門職との連携を強化すること。【本講義の目標】 その基盤となる知識について、以下の項目について具体的に説明できるようになること。・なぜ心理学や福祉を学ぶ人が「医学」を学ぶのか? ・人のライフステージにおける心身の変化と健康課題とは何か? ・人の身体構造と心身機能の基本・健康・疾病の捉え方に関する基本・疾病と障害の成り立ち及び回復過程・各疾病の具体的な知識・人々の健康への展望を革新するための公衆衛生対策特に、本講義は福祉および心理の分野において特に必要とされることを中心に解説する。この授業では社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師の国家試験範囲を包含した医学知識について主に講義を行うが、医療・健康・食品・運動関係などに興味のある人にも参考になる。(「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)
			合計単位数	家政学部 文学部 人間社会学部 理学部 国際文化学部 建築デザイン学部 食科学部			37